



シモマツチの 校長随想

～教育は過去からの贈り物、そして未来へのメッセージ～

下町壽男 盛岡中央高校附属中学校副校長

第17回

ヒトをロボット化しているのは実は…

□ 電車の中で見たある「名人芸」

先日、通勤電車の中で、ちょっと面白い光景を目にしました。私の隣に2人の女子高生が座っていて、その一人が、左手にスマホ、右手にA4判のプリントを手にしていました。そのプリントは、ある教科のゼンター試験演習の解答用紙でした。

解答は白紙でしたが、スマホに解答の画像が表示されていて、彼女はその解答をテキパキとシートに写しこんで解答を完成させました。まあ、よくある光景です。今日学校に提出しなければならぬ宿題をやっているなかったのだなあと見えて見ていると、今度は赤ペンを取り出して、採点をし始めました。その採点が面白いのです。マルとバツを適当に織り交ぜているんですね。単に模範解答を写したと思ったらそうではなく、わざとあんばいよく「間違いを混入させながら」解答を作っていたんです。

その結果40点台の得点になりました。彼女は隣の子に「このくらいの点数でいいよ

ね」とささやきました。この間わずか10分足らず。私は、彼女のその一連の早業に感心してしまいました。ある意味スゴイ能力だなあ。それは1ミリもその教科の勉強にはなっていないと思うけれど。

□ 身体化された「悲しき性」

人は彼女の「能力」にあきれ、こう言うかもしれません。「その力を勉強に注げ」と。でも、私が思ったのは、彼女の能力は、「勉強とは提出物を出すこと」という「授業システム」によって身体化された「悲しき性」^{さが}なのではないかということです。私は、彼女のふるまいを教科担任が知ったらどんな対応をするかを想像しました。やはり、彼女の行動がいかに馬鹿げているかを説き、叱責するかもしれません。でももしその教師が「写しても何でもいいからとにかく提出しろ」というタイプの人間だったら、エクセルの提出物リストにチェックを入れて安心するのではないかと。

もう一つ私が思ったことを述べておきます。それは、彼女のふるまいを大人があき

れる前に、自らの仕事を振り返る必要があるのではないかとことです。我々も、意味なく、上から与えられた仕事、前年やっていた業務をひたすらこなして、カタチに仕上げることをやっているのではないか。であるなら、教師もその生徒と同様に悲しき性が身体化されている存在なのではないかということです。

生徒の主体化、そして、主体的な学びを考えるならば、まずは教師が創造的に、批判的に考え、行動する存在であるかが問われるべきなのではないかと思うのです。

□ 人間がA-Iに上回るところ

話は変わりますが、以前、香里ヌヴェール学院校長の石川一郎先生から、とても興味深い話をうかがいました。それは、あるタスクを「0→1→……→9→10」という10段階の流れで示すとき、A-Iが人間より得意な部分、逆に人間がA-Iより得意な部分はどこであるかという問いです。結論を言うと、人間がA-Iを上回るのは、0→1のところと、9→10のところだということです

ね。なるほど、0→1、つまり、無の状態から何かをつくり出すということは、創造的知性や、インスピレーションなどの働きが必要であるし、9→10は最後の仕上げであり、できあがったものに、さらに何かしらの思いやりや気配りなどを加えるというのはA-Iに勝るものなのかもしれません。

ところがその一方、アップル社のCEOのティム・クック氏はこんなことを述べています。「人間のようになれる能力をもつ人工知能の存在に、僕は脅威を感じない。それより、人がコンピュータのように振る舞うことの方を憂慮している」

学校現場を見ると、多くの教師は、前例踏襲や、定型の処理をこなすことは得意だけど、「0→1」のような行動をとろうとする人は数少ないように思えます。それは「多忙化」によつてそのような余裕がないからだ、と言われるかもしれませんが。

でも、様々な規則やマニュアルを作ることに血眼になったり、例年通りからはみ出さずに業務をこなすことこそ仕事の本質と捉えていたり、情報を伝えることより文書

の体裁や字句に異常にこだわったり、何を言ったかより、誰が言ったかに神経をとがらせたり……。

そんな実態を見ると、むしろ「多忙化」は、余儀なくさせられているというより、自らもその多忙化に加担し、その輪の中をぐるぐる泳ぎ回っているようにも見えます。

そして、そのことは、子どもたちにも同じように求められるのです。課題の提出率や家庭学習時間を「勉強」の評価指標とする「学習指導」。ゼロトレランスなどという名のもとに、細かい（くだらない）校則を拡大再生産する「生徒指導」。業者テストの判定を金科玉条とし、パソコンをひたすら叩いて進学先をオーダーする「進路指導」……。

このような指導は、上の者に対して従順であることを強要し、自分というものを失わせ、主体的に生きることをやめさせる、つまりヒトをロボット化していくことなのではないか。私はそんなふうに見えてしまうのです。